

第6回

震災研究連絡会

弘前大学のネットワークで震災研究を広げよう。



日時 2011年12月13日(火) 18:00~

場所 コラボ弘大1F コミュニティ・スペース

司会 檜橋 貢(ひまき・みつぐ) 弘前大学大学院地域社会研究科教授

18:00~18:45

工藤 誠治(くどう・せいじ) 弘前市医師会救急災害対策委員長・ESTZクリニック院長

「震災時の医療救護活動における弘前市医師会の参加」

18:45~19:30

遠藤 明(えんどう・あきら) 弘前大学農学生命科学部

「農地土壌の塩類汚染浄化に向けた取組み」

19:30~20:00

意見・情報交換

※震災対応や震災研究に興味のある方はどなたでも参加・聴講できます。

※当日2つの報告の後に、震災に関する情報・意見交換を行います。情報をお持ちの方はこの機会にご紹介ください。

※連絡会終了後、有志の懇親会を予定しています。

【連絡先】

弘前大学大学院地域社会研究科

檜橋貢研究室(教員室2)

Tel 0172-39-3938(内線3938)

Mail himaki@cc.hirosaki-u.ac.jp



弘大 コラボ弘大 までの交通案内



コラボ弘大総合案内 [1F]

〒036-8561 弘前市文京町3
TEL 0172-39-3898

11月7日の連絡会は、福島第一原発の事故に伴う医療対応に携わった弘前大学医学部高度救命救急センター長の浅利靖教授が、現場の状況や弘前大学チームの活動について報告した。報道陣はじめ部外者が全く立ち入れない現地の対策本部の様態や、過酷な環境下で事故処理に当たる人々、彼らの出勤拠点となっている「Jビレッジ」の設備など、非常に興味深い情報に、出席者らは息を呑んだ。浅利教授の「決して喜ばしいことではないが、弘前大学がかねてから被ばく医療体制を整えていればこそ、今回の活動があった」という言葉に、「備え」の大切さを再認識させられた。

もう1人の発表者は、宮城県や岩手県で復旧・復興対策に奔走している、教育学部の北原啓司教授。従来の都市工学やまちづくりの視点が、必ずしも防災面では有効ではなかったという反省を込めながら、自らが深くかかわり、岩手県北上市に開設された「きたかみ震災復興ステーション」の活動などを紹介した。同市や県内の各NPO、工学系・社会科学系の各学会が協力し、沿岸被災地の復旧・復興を内陸から支えるという方向性は、被災地のみならず、これから災害に遭うかもしれない各地のまちづくり、地域運営にも大きなヒントとなると実感した。(K)

第7回連絡会は2012年1月中旬に、同じくコラボ弘大1Fのコミュニティ・スペースにて開催予定。